

# 伊勢の鉄道

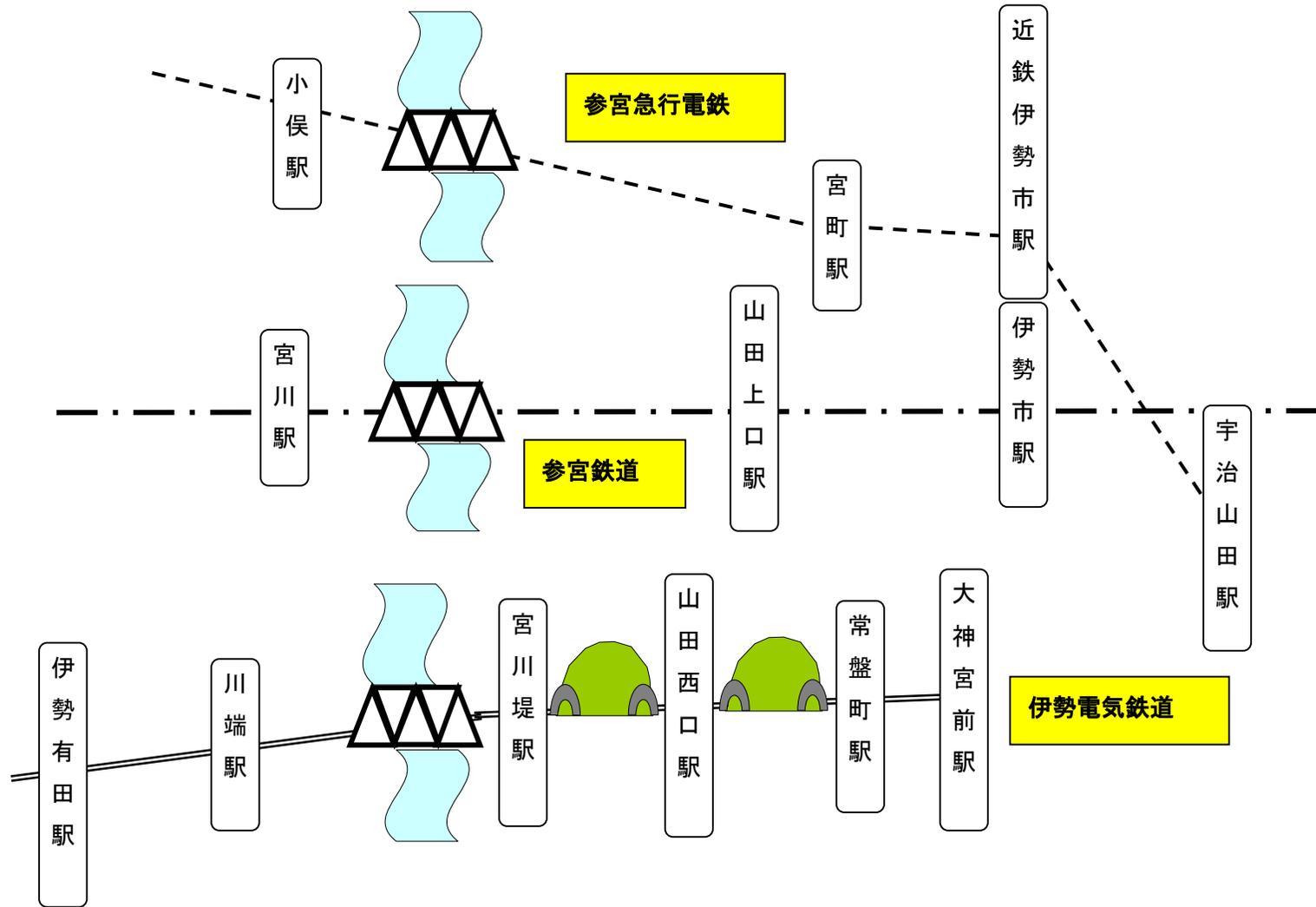
平成 25 年 5 月 16 日

秋田 耕 司

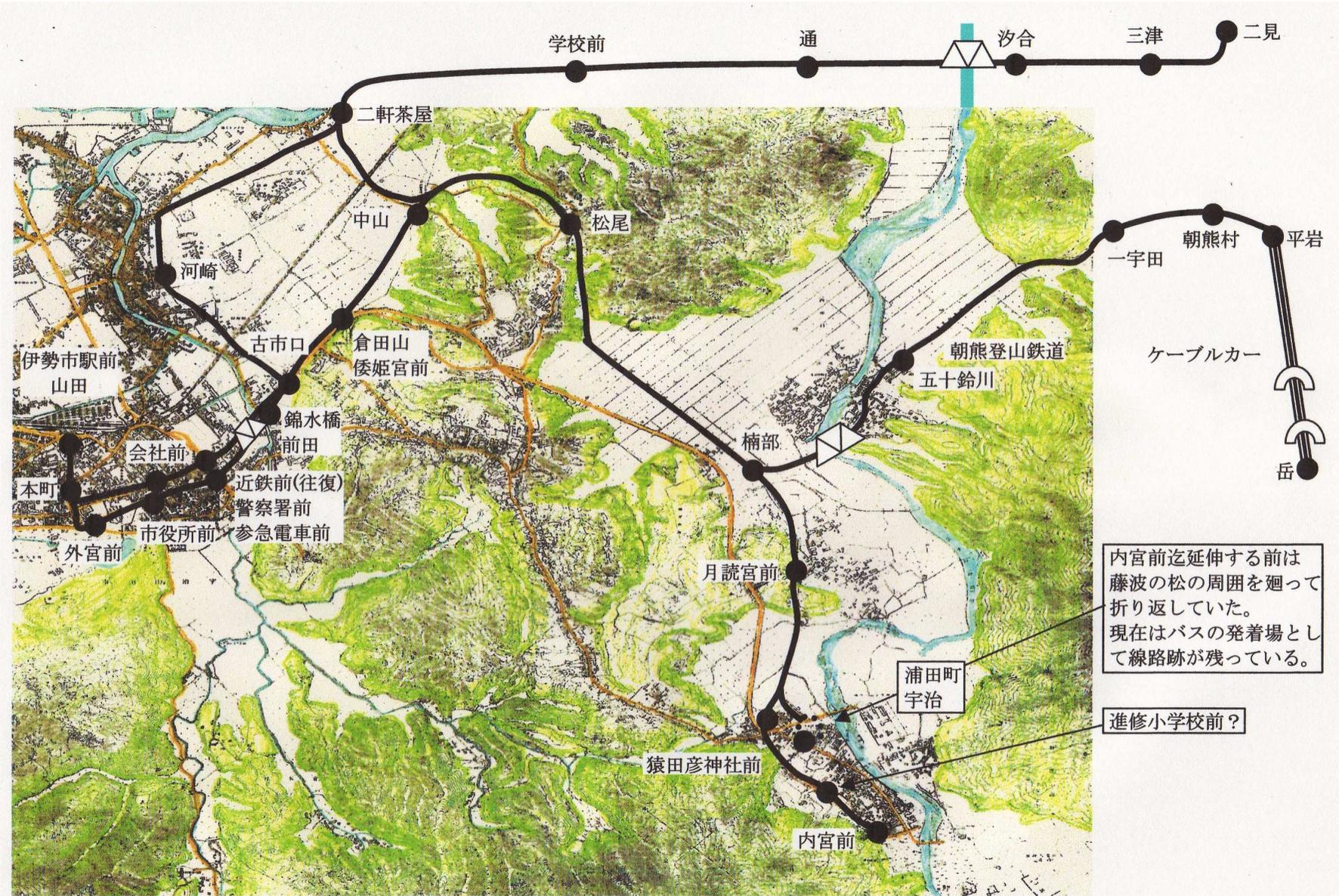


「伊勢鳥瞰図」橋本鳴泉(伊勢 朝熊町出身 四條・円山派の日本画家) 昭和9年作

# 参宮鉄道・参宮急行電鉄・伊勢電気鉄道



# 伊勢電気鉄道(神都線)・朝熊登山鉄道



内宮前迄延伸する前は藤波の松の周囲を廻って折り返していた。現在はバスの発着場として線路跡が残っている。

進修小学校前?

# 伊勢市の鉄道の歴史

年	参宮鉄道 国鉄→現 JR東海参宮線	参宮急行電鉄(参急) 現 近鉄日本電気鉄道	伊勢電気鉄道 廃線 旧 関西急行鉄道伊勢線	伊勢電気鉄道(神都線) 旧 三重交通神都線 廃線	朝熊登山鉄道 廃線 旧 三重合同電気朝熊線
明治 05 年 1872	新橋駅-横浜駅間で正式開業 (実際にはその数か月前から品川駅-横浜駅間で仮営業が行われていた)				
明治 23 年 1890	神苑会幹事 太田小三郎が 参宮鉄道設立				
明治 26 年 1893	津～宮川開業				
明治 29 年 1896				太田小三郎らが水力発電、電 気鉄道を目的とし 宮川電気設立	
明治 30 年 1897	宮川～山田開業			市内に電灯781個を点灯	
明治 36 年 1903				本町～二見開通 伊勢電気鉄道と改称	
明治 38 年 1905				山田～本町開通	
明治 39 年 1906				古市口～宇治開通	
明治 40 年 1907	国有化され日本国有鉄道とな る			中山～二軒茶屋開通 電灯供給地域を四郷・浜郷両 村に拡張	
明治 41 年 1908				電灯供給地域を二見町に拡 張	
明治 42 年 1909	亀山～山田間参宮線となる			外宮前～古市口開業	
明治 43 年 1910		奈良軌道を前身として 大阪電気軌道設立			
明治 44 年 1911	山田～鳥羽開業		前身の伊勢鉄道が設立	電灯供給地域を大湊神社両 町に拡張	
大正 03 年 1914		上本町～奈良開業		宇治～内宮前開業	
大正 09 年 1919					朝熊登山鉄道設立

大正 11 年 1922				松阪水力電気・津電灯と合併して三重合同電気となる	
大正 14 年 1925					朝熊登山鉄道営業開始
大正 15 年 1926			伊勢電気鉄道と改称		
昭和 02 年 1927		参宮急行電鉄を設立			朝熊岳自動車設立 岳～金剛証寺本堂前開通
昭和 03 年 1928					三重合同電気に合併 朝熊線となる
昭和 05 年 1930		上本町～山田開業	桑名～大神宮前全線開通	合同電気に改称	
昭和 06 年 1931		山田～宇治山田開業	参宮急行電鉄に合併		
昭和 11 年 1932			参急の子会社として 関西急行電鉄を設立		
昭和 12 年 1933				東邦電力に合併	
昭和 13 年 1938			関西急行電鉄として 名古屋～大神宮前開通		
昭和 14 年 1939				国策によって電力事業と運輸事業を分離され、 電車部門は神都交通の経営となる。	
昭和 15 年 1940			関急電は参急に合併		
昭和 16 年 1941	参急は大阪電気軌道に合併し関西急行鉄道になる				
	伊勢中川～宇治山田間を 山田線とする				
昭和 17 年 1942			新松阪～大神宮前間廃止		
昭和 19 年 1944	関西急行鉄道と南海鉄道が合併し、近畿日本鉄道創立				朝熊線を休止(S37 廃止)
					三重県下の鉄道・バス事業を統合して三重交通が発足 三重交通神都線となる
(17年間)	JR東海参宮線として継続	近鉄日本電気鉄道伊勢線として継続			
昭和 36 年 1961					神都線をバスに転換して全廃

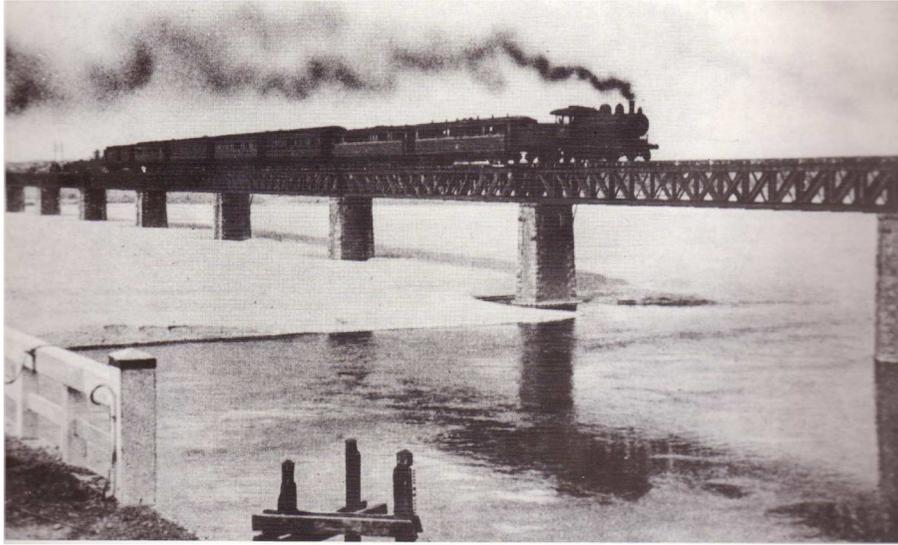
# 伊勢電気鉄道（神都線）

電車鉄道としては東京電気鉄道（後の東京都電）より17日、大阪市電より1ヶ月早い開業で、日本で7番目。路面電車としては3番目。

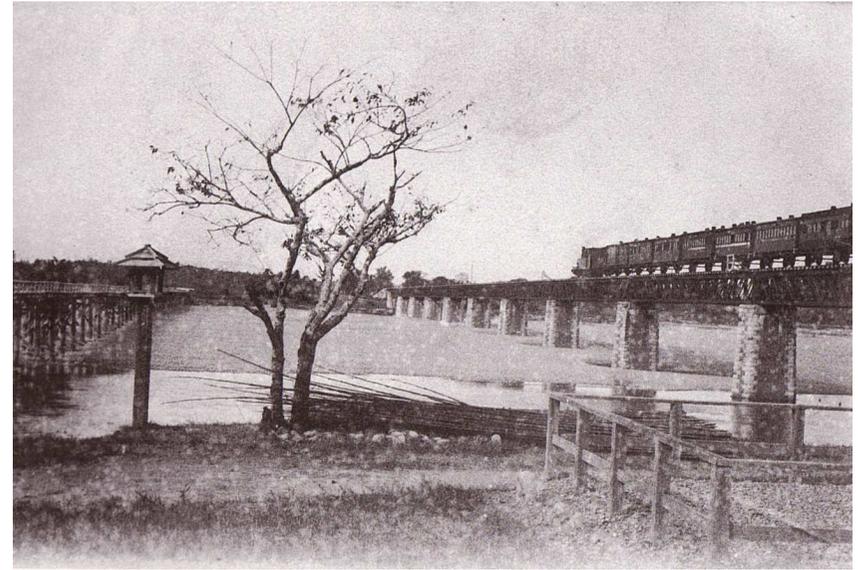
## 全国の（路面）電車開業の順位（抜粋）

	開業年月日	開業時会社名	現在の会社名	（参考文献の順位） 開業時の路線
01	1895(M28)02.01	<a href="#">京都電気鉄道</a>	1978(S53)までに全廃	①( <a href="#">京都市電</a> ①)伏見線 七条停車場-下油掛間
02	1898(M31)05.06	<a href="#">名古屋電気鉄道</a>	1974(S49)までに全廃	②( <a href="#">名古屋市電</a> ②)笹島 - 県庁前間
03	1899(M32)01.21	<a href="#">大師電気鉄道</a>	<a href="#">京浜急行電鉄</a>	③(鉄道)のち京浜電気鉄道、川崎駅(後の六郷橋駅) - 大師駅(現・川崎大師駅)間
04	1900(M33)03.31	<a href="#">小田原電気鉄道</a>	1956(S31)までに全廃	④(鉄道)国府津 - 小田原 - 湯本(後、箱根湯本)間
05	1900(M33)05.10	<a href="#">豊州電気鉄道</a>	1972(S47)までに全廃	⑤(鉄道)大分町(後、堀川) - 別府町(後、別府棧橋)間
06	1902(M35)09.01	<a href="#">江之島電気鉄道</a>	<a href="#">江ノ島電鉄</a>	⑥(鉄道)藤沢 - 片瀬(現・江ノ島)間
07	1903(M36)08.05	<a href="#">伊勢電気鉄道</a>	1961(S36)廃線	⑦(市電③)本町 - 二見間
08	1903(M36)08.22	<a href="#">東京電車鉄道</a>	1972(S47)までに全廃	⑧(東電)品川 - 新橋間、のち東京鉄道(東鉄)→東京市電
09	1903(M36)09.12	<a href="#">大阪市営電気鉄道</a>	1969(S44)までに全廃	⑪( <a href="#">大阪市電</a> )築港線:花園橋 - 築港棧橋 間
10	1903(M36)09.15	<a href="#">東京市街鉄道</a>	1972(S47)までに全廃	⑨(街鉄)数寄屋橋 - 神田橋間、のち東京鉄道(東鉄)→東京市電
13	1904(M37)12.08	<a href="#">東京電気鉄道</a>	1972(S47)までに全廃	⑩(外濠線)土橋-御茶の水間、のち東京鉄道(東鉄)→東京市電
14	1905(M38)04.12	<a href="#">阪神電気鉄道</a>	1975年軌道線区間全廃	神戸(三宮) - 大阪(出入橋)間 <a href="#">阪神急行電鉄</a> (阪急)
28	1910(M43)03.25	<a href="#">嵐山電車軌道</a>	<a href="#">京福電気鉄道</a>	京都(現・四条大宮)-嵐山間
30	1910(M43)04.15	<a href="#">京阪電気鉄道</a>	同	天満橋 - 五条(現在の清水五条)間
32	1910(M43)10.01	<a href="#">南海鉄道</a>	<a href="#">阪堺電気軌道</a>	旧浪速電車軌道 天王寺西門前-住吉神社前間
44	1911(M44)12.01	<a href="#">阪堺電気軌道</a>	1980(S55)廃線	恵美須町 - 市ノ町(現在の大小路)間
49	1912(T01)08.15	<a href="#">京津電気軌道</a>	<a href="#">京阪電気鉄道</a>	古川町-上関寺仮乗降場間、上関寺-札ノ辻間
62	1914(T03)04.30	<a href="#">大阪電気軌道</a>	<a href="#">近畿日本鉄道</a>	のち <a href="#">参宮急行電鉄</a> 、上本町 - 奈良(高天町の仮駅)間
77	1921(T10)04.01	<a href="#">北大阪電気鉄道</a>	<a href="#">阪急電鉄</a>	十三 - 淡路 - 豊津間
110	1926(S01)12.26	<a href="#">伊勢電気鉄道</a> (別会社)	<a href="#">近畿日本鉄道</a>	津新地 - 四日市間、伊勢若松 - 伊勢神戸間電化
114	1927(S02)07.01	<a href="#">阪神国道電軌</a>	1975(S50)廃線	西野田 - 神戸東口間
116	1928(S03)11.03	<a href="#">奈良電気鉄道</a>	<a href="#">近畿日本鉄道</a>	桃山御陵前駅から西大寺駅の間

## 参宮鉄道



宮川鉄橋 M40 頃



小俣側より見た鉄橋



桜の渡し付近の鉄橋



元 筋向橋駅



M40



伊勢市駅 元山田駅 S 初



最近



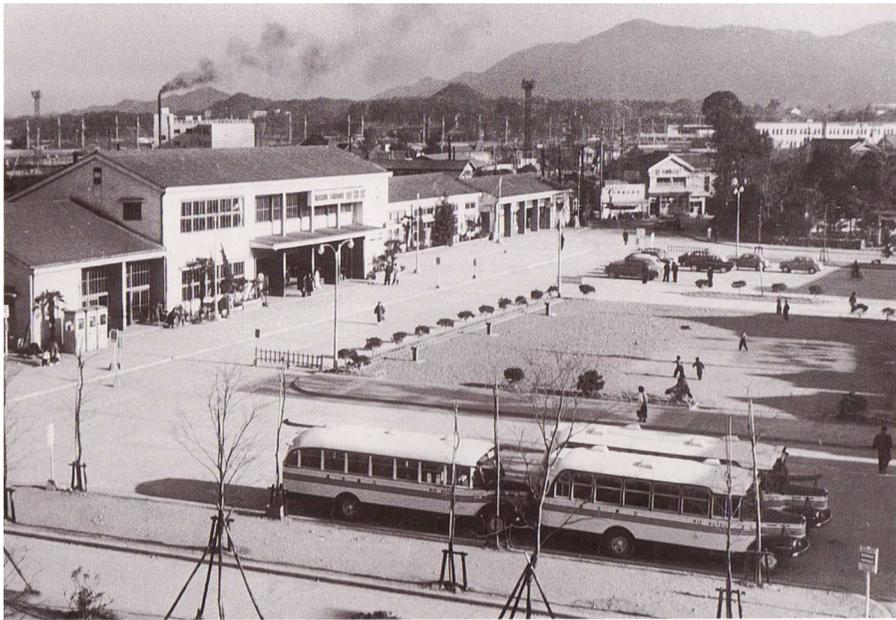
FAMOUS PLACES AND FINE PROSPECTS IN ISE 山田駅前 景光

山田駅前の旅館街 T 初

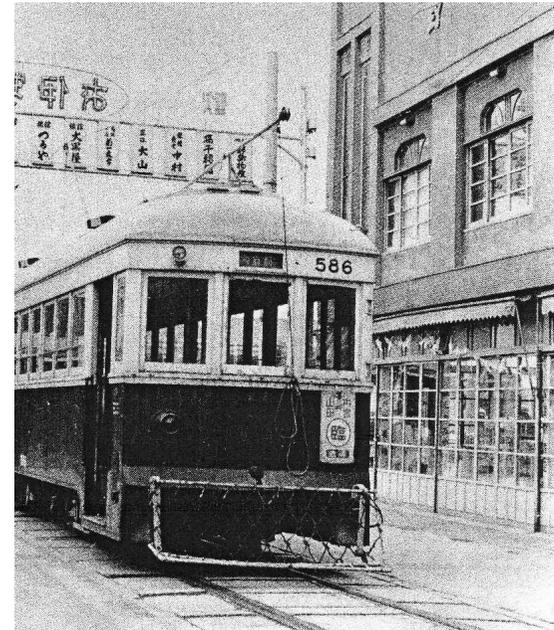


山田駅前 遠く外宮高倉山を望む

S 初



S30 頃



S35

## 参宮急行電鉄



近鉄 宮町駅 (元 外宮前)



近鉄 伊勢市駅 (元 山田駅)



近鉄 宇治山田駅 昭和6年3月完工時



宇治山田駅の内部



**遷宮奉祝神都博覧會**

觀覽のしるべ

自昭和五年三月十日（六日開）  
至昭和五年五月十日

<b>會期</b>	自昭和五年三月十日（六日開） 至昭和五年五月十日
<b>本會施設</b>	大宮式場建物の一部下場を受け之に大宮其他に關する御物を奉歸す建園以來の最大規模な施設開園に依り觀覽し御禮奉金の款收後後に寛め開列をなす
<b>觀覽案内</b>	午前七時より 午後五時まで 代官開場の場合 午後六時より 午後十時まで 大人 二十五錢 小人 十五錢 高小生 十錢 小人 五錢
<b>觀覽料</b>	大人 十錢 小人 五錢

**協賛會施設**

<b>宇治橋</b>	本館其儀のしるべ施設し橋下に於本館に入り伊勢名勝に遊の中伊勢の茶屋女お茶を始め名勝土產物類を觀覽す
<b>伊勢名勝館</b>	伊勢名勝其他を演説
<b>名物館</b>	伊勢名物其他を演説
<b>演藝館</b>	伊勢音頭其他を演説
<b>野外演藝場</b>	博覧會場内に於て種々なる餘興を無事公開す

**團體観引**

團體及生徒兒童等に規程軍人に對しては便宜に其の單體料を左の通りとし

●五十人以上の團體 壹割引  
●百人以上の團體 貳割引  
●現役軍人は此割引に參照す

**圖置配會博都神奉遷宮**

遷宮奉祝神都博覧會 昭和5年3月10日~5月10日

# 伊勢電気鉄道



S5



S45



S17 宮川堤駅



現在の宮川堤駅跡付近



現在の山田第1トンネル



S45



現在の山田西口駅跡付近



こんな標識を掲げている方も



現在の山田西口～常盤町間の山田第2トンネル



現在の常盤町駅跡付近



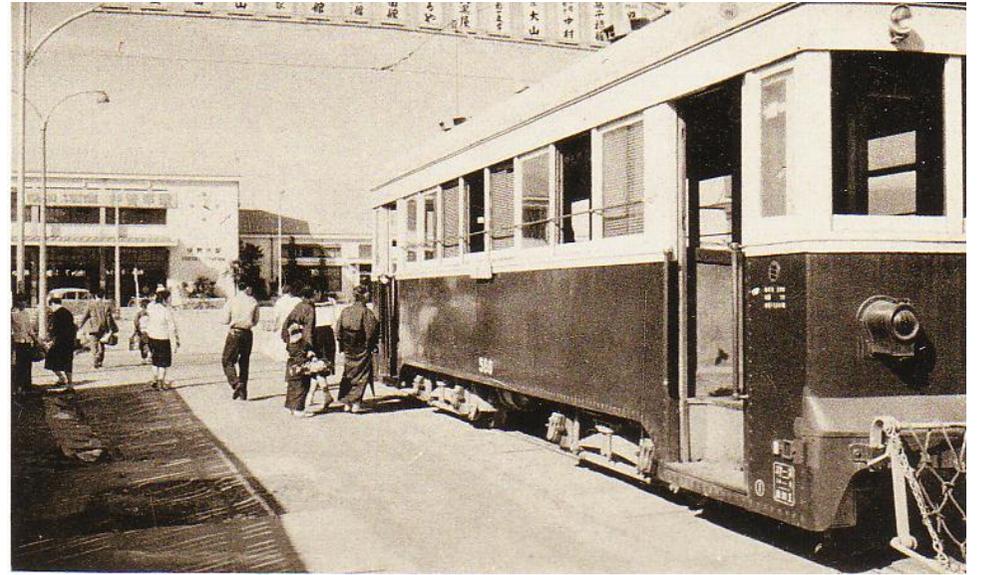
S16



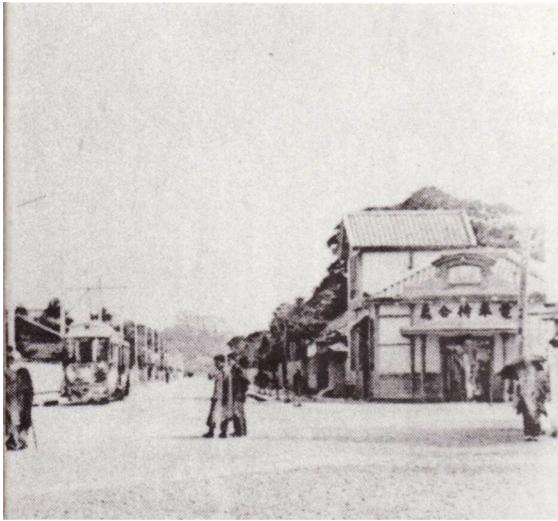
現在の大神宮前駅跡付近



山駅前駅 M 末



S30 頃



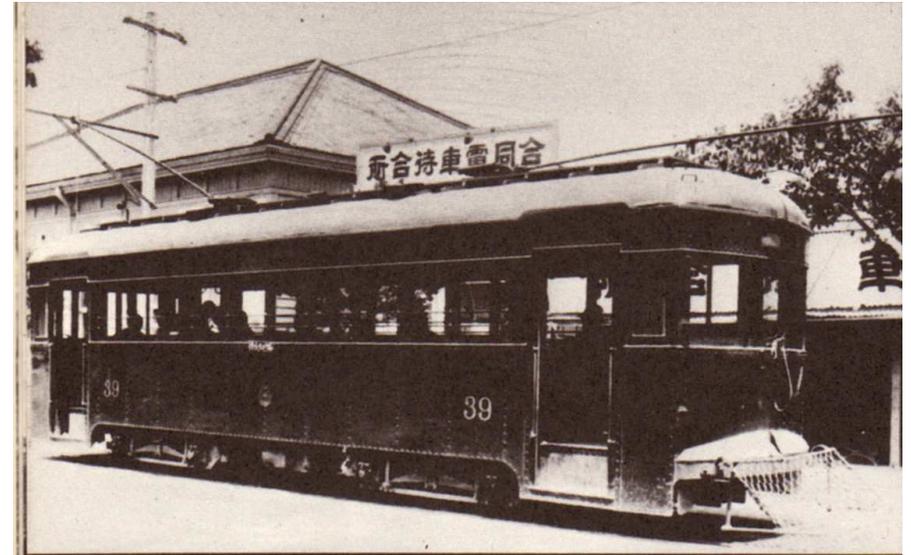
外宮前駅



S 初



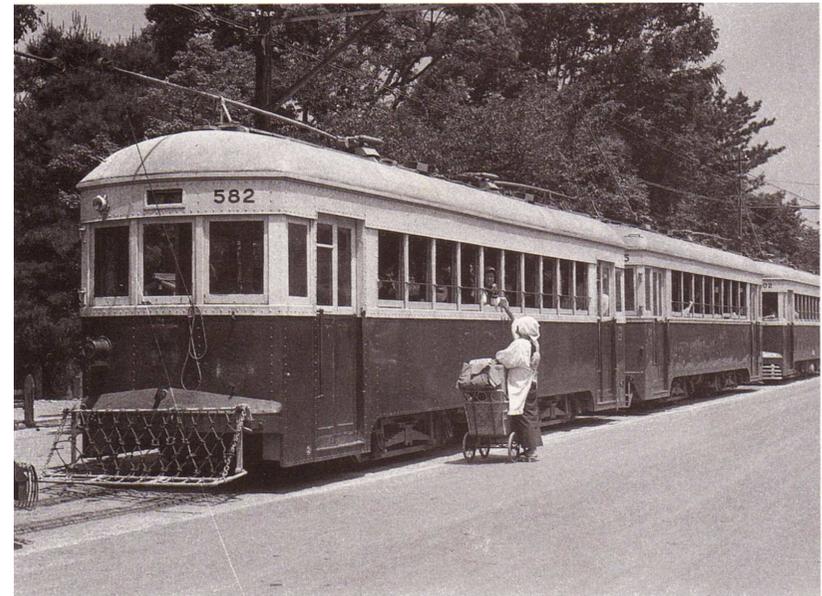
外宮前駅



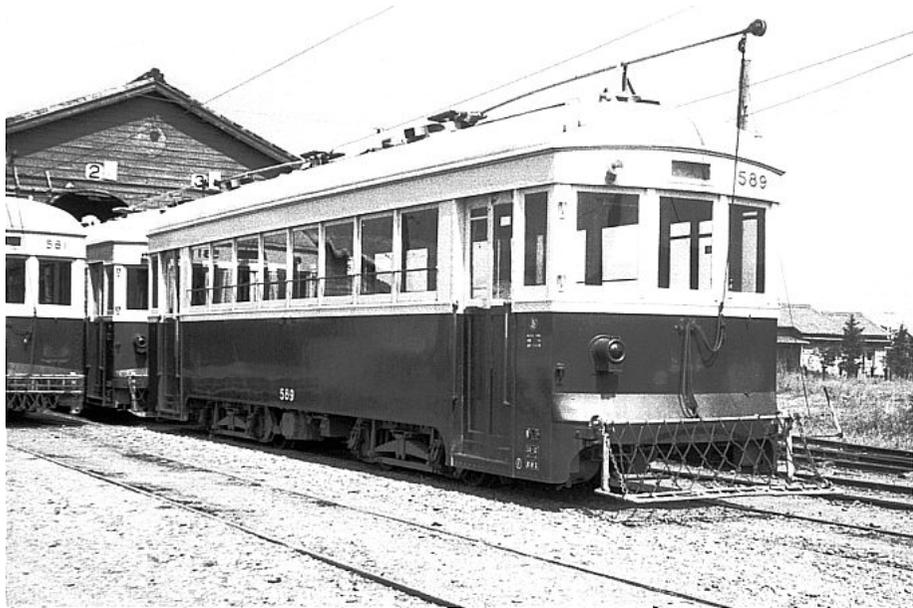
市役所前駅 T 末



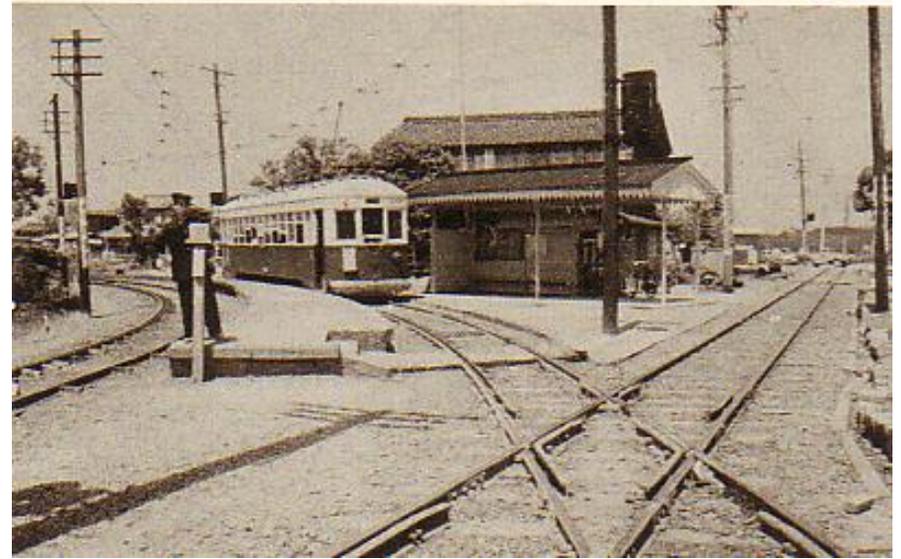
S36 市役所前駅



S35



錦水橋操車場 S34



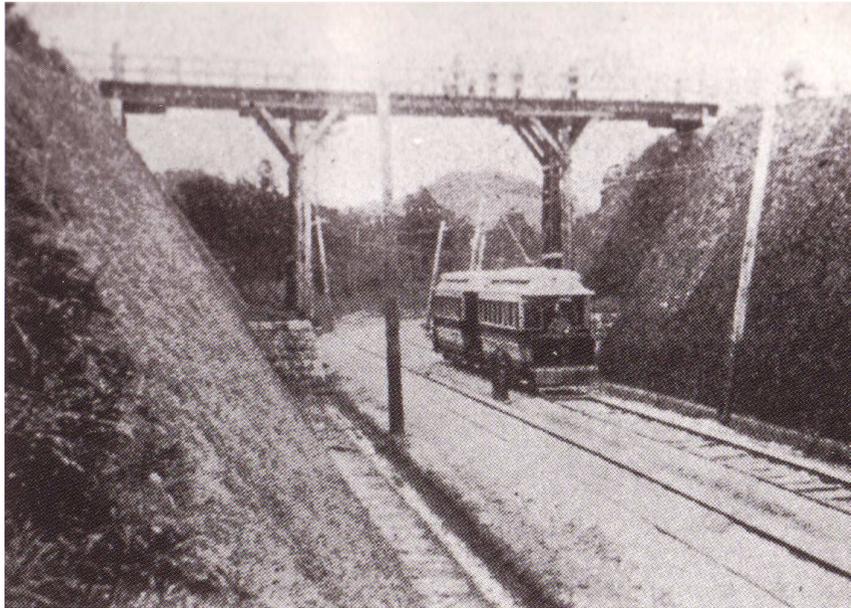
S35 古市口駅追分



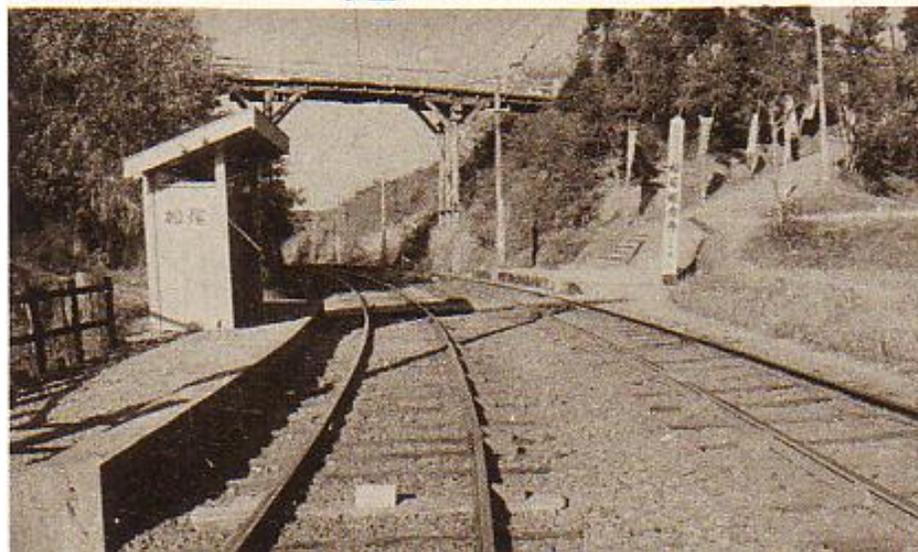
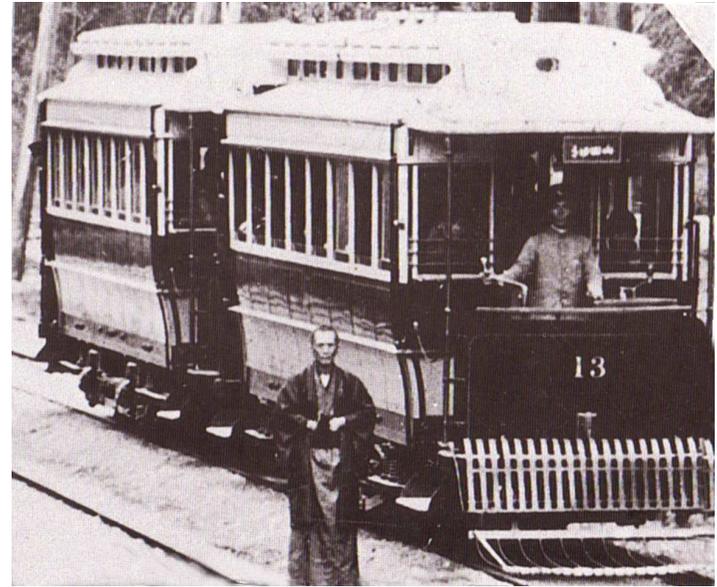
倉田山駅



中山駅



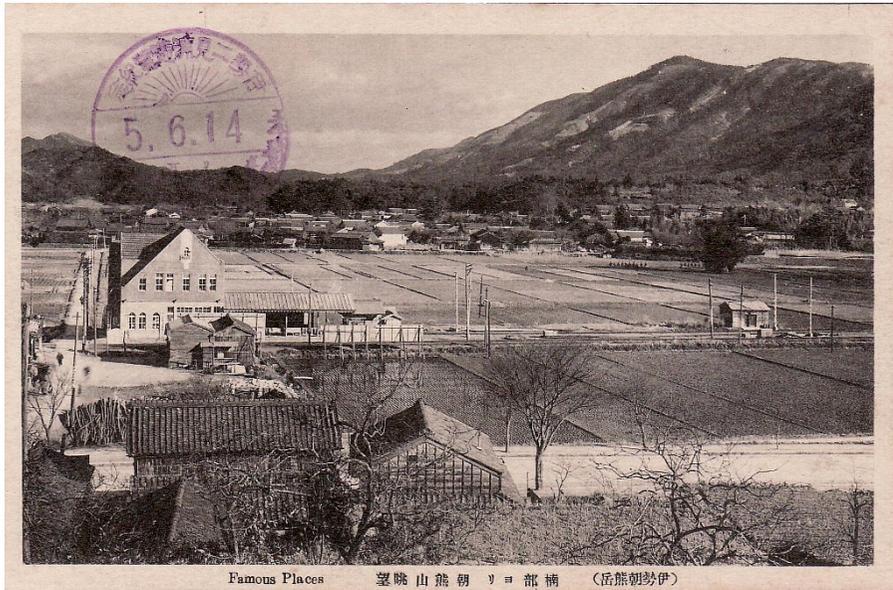
松尾駅 M39



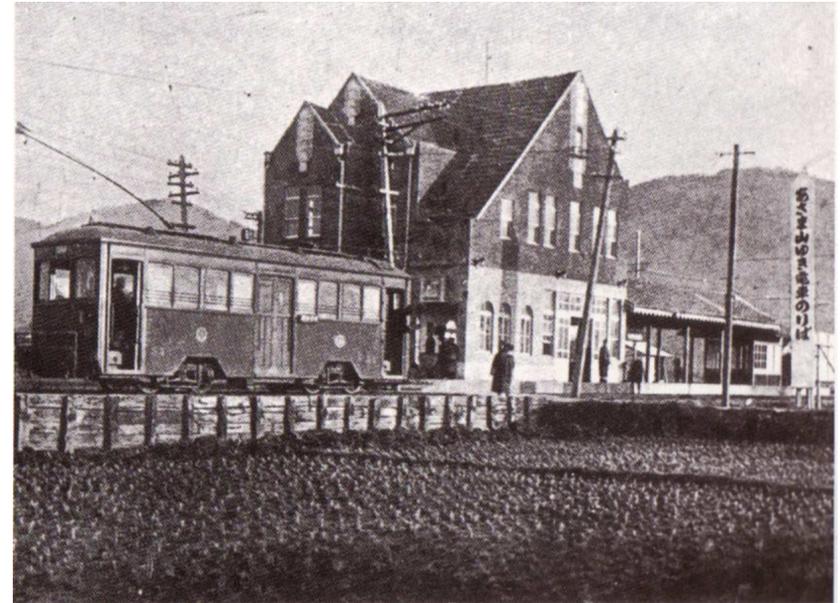
S30 頃



現在の松尾駅跡付近と松尾観音



楠部駅 S5



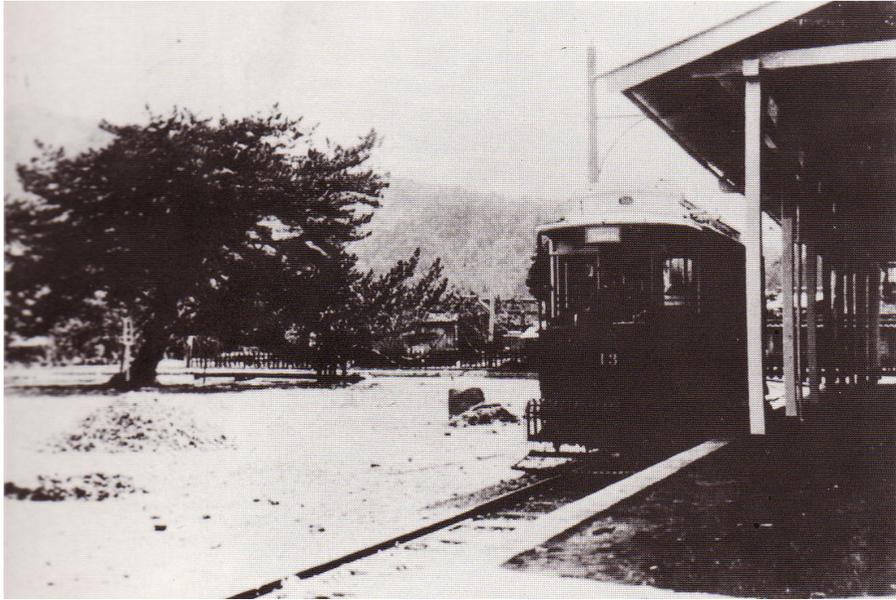
S4



月読宮前駅



猿田彦神社前駅

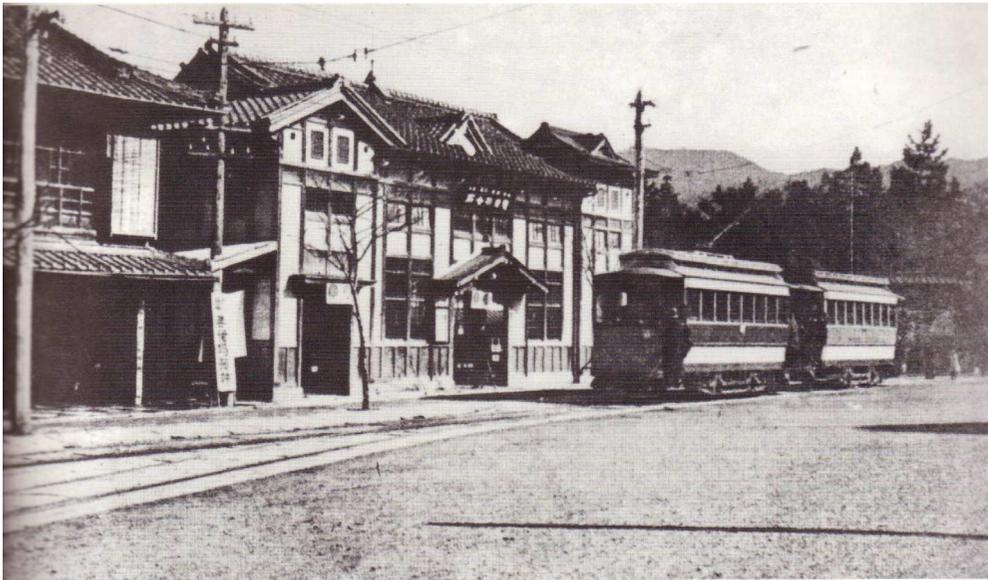


浦田町駅



現在の藤波長官の松

内宮前まで開通していなかった時代には、  
ここに浦田町停留所がありこの周りを廻って折返し運転をしていた



内宮前駅



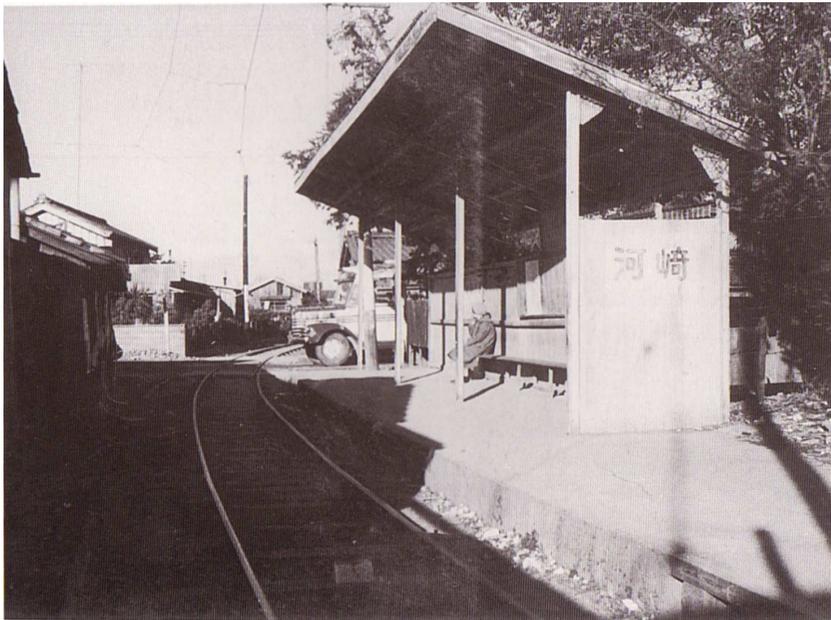
S30 頃



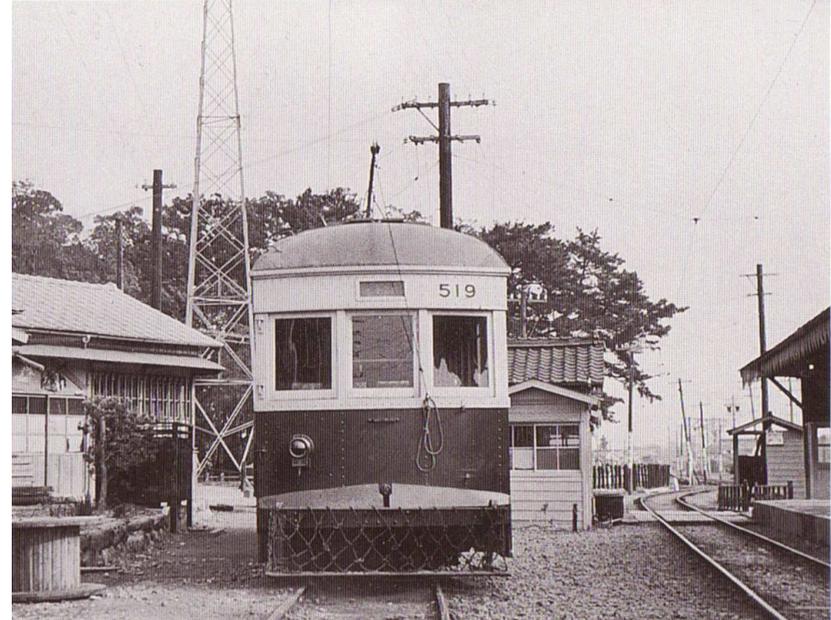
古市口・河崎間の JR 鉄橋 この下を神都線が走っていた



中山信号所から二軒茶屋に向かう JR 鉄橋 この下を神都線が走っていた



S35 河崎



S30 二軒茶屋



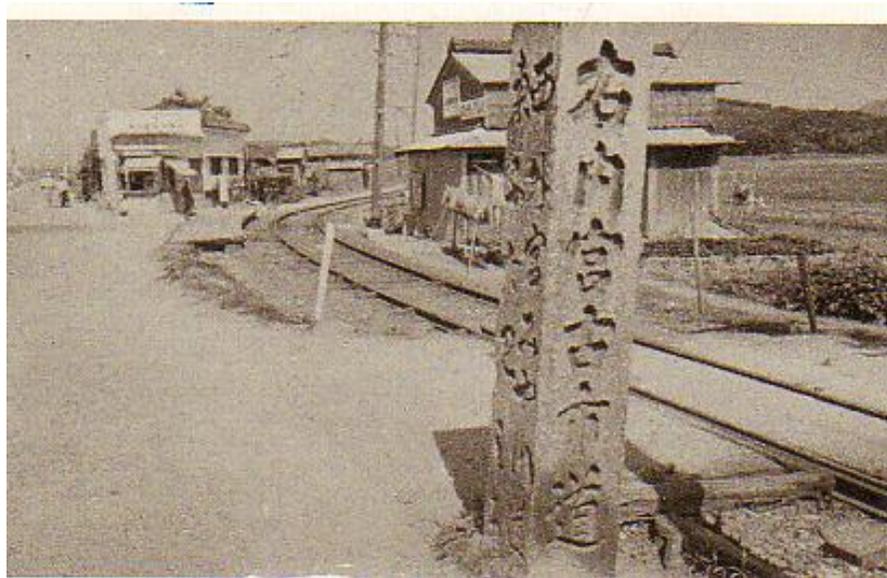
今も変わらない二軒茶屋にある角屋  
この茶屋の前を神都線が走っていた



裏には明治天皇がここから神宮に  
参拝したことを記念した碑がある。



二軒茶屋船着場  
昔は陸路以外に、ここから上陸して神宮に参拝した



学校前駅



通駅



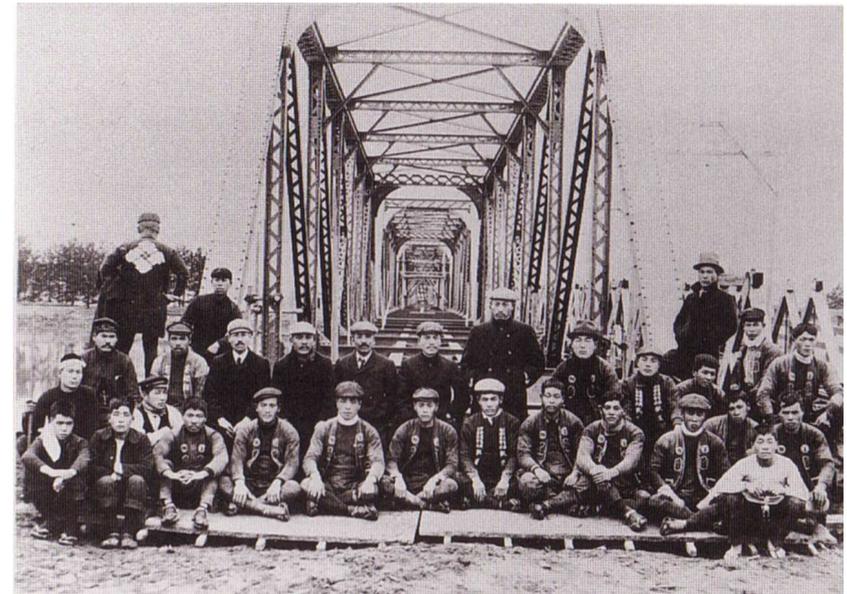
汐合鉄橋跡



汐合鉄橋跡の対岸には  
桜並木道が少し残っていた



S4 汐合鉄橋



M36 竣工



汐合駅



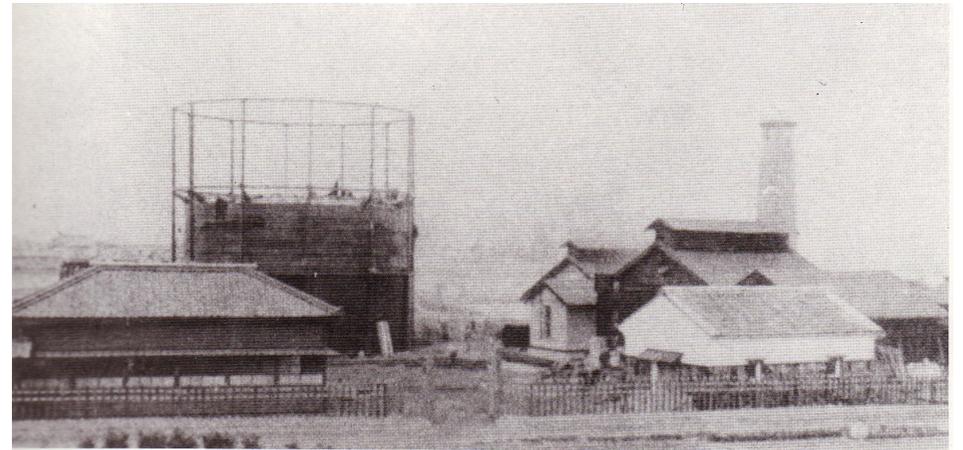
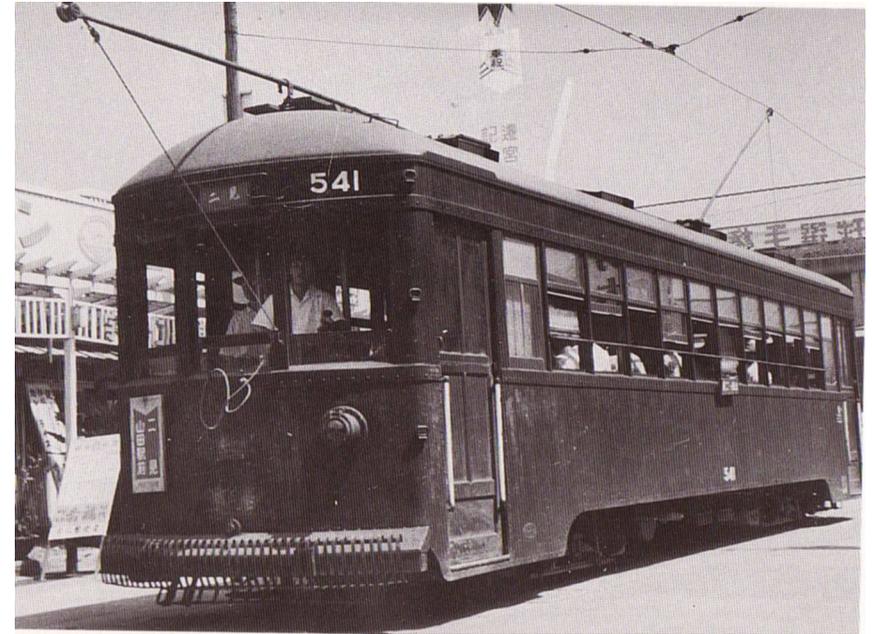
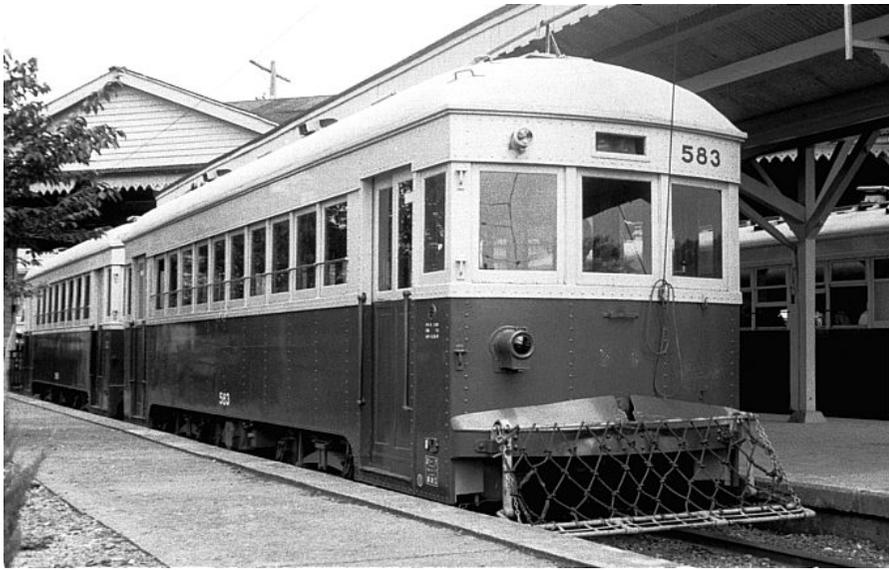
三津駅



二見駅



S30 頃



火力発電所とガスタンク

## 朝熊登山鉄道(ケーブルカー) 東洋一の急勾配

「伊勢に参らば朝熊を駆けよ 朝熊駆けねば片参宮」といわれるように、神宮へ参詣すると必ず朝熊岳の頂上にある金剛証寺へ参詣した。



M末



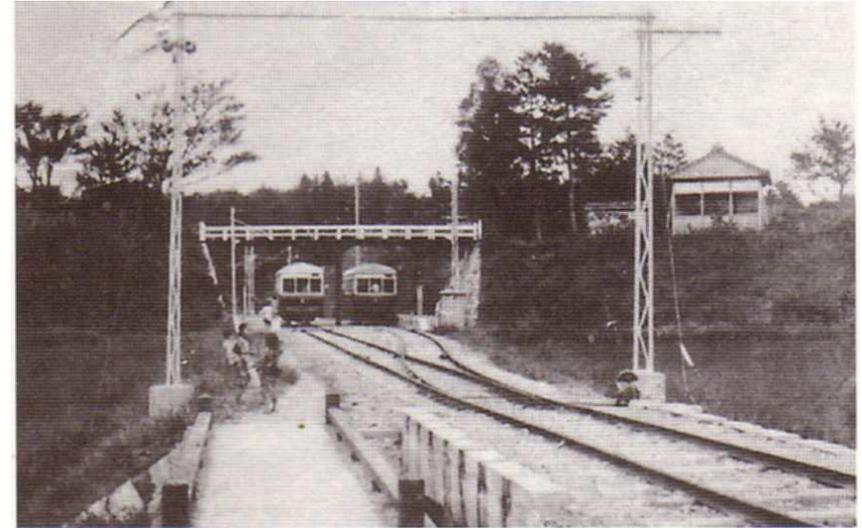
金剛証寺



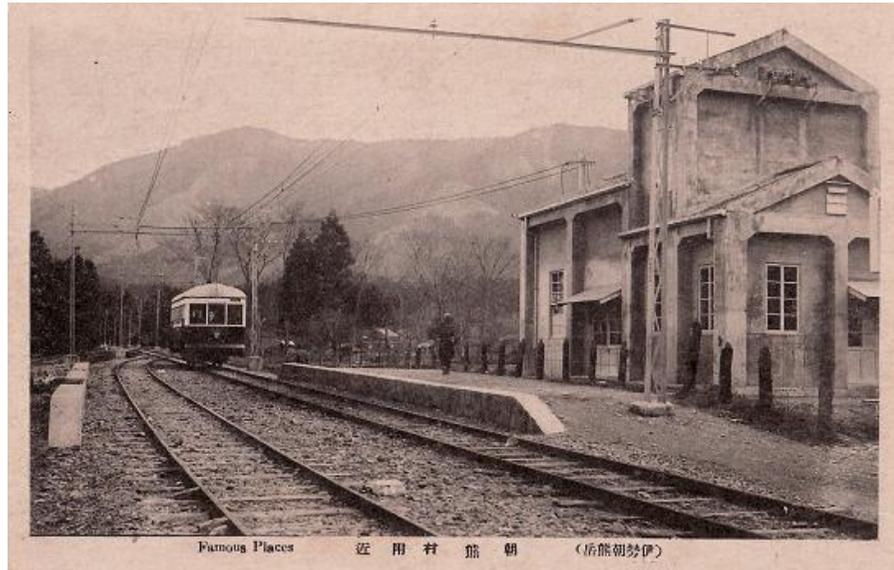
奥ノ院



楠部～五十鈴川間の鉄橋跡



一宇田  
右側通行



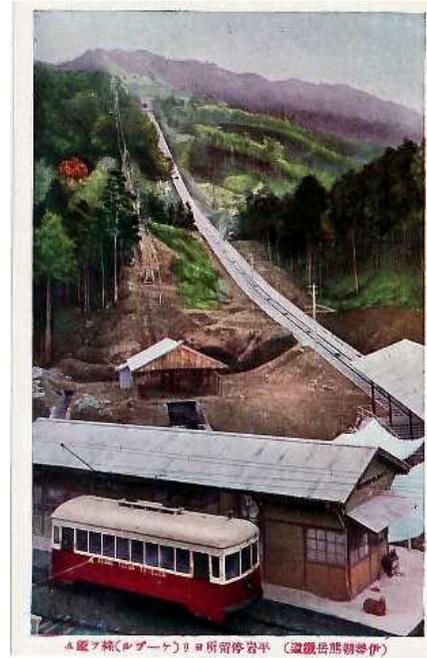
朝熊駅と変電所

### 右側通行

伊勢神宮へ参拝する際、外宮を見てから内宮へ向かうのが普通であるが、その際伊勢市駅前～近鉄宇治山田駅前間の上下線が分かれていた区間では、より外宮に近いほうを通る路線を下りとし、外宮前を經由せずその北を直進してより宇治山田駅に近い位置を通る路線を上り線としたほうが好都合なため、日本での一般の鉄道や道路が左側通行を原則としているのに逆らって、右側通行となった。そのほかの区間でも、運転上の勘違いを防ぐために行き違い場所はすべて右側通行にしていた。



平岩駅





ケーブルカー平岩駅乗り場跡



登山電車平岩駅から  
ケーブルカー乗り場への橋



鉄路跡に掛かる登山道の橋



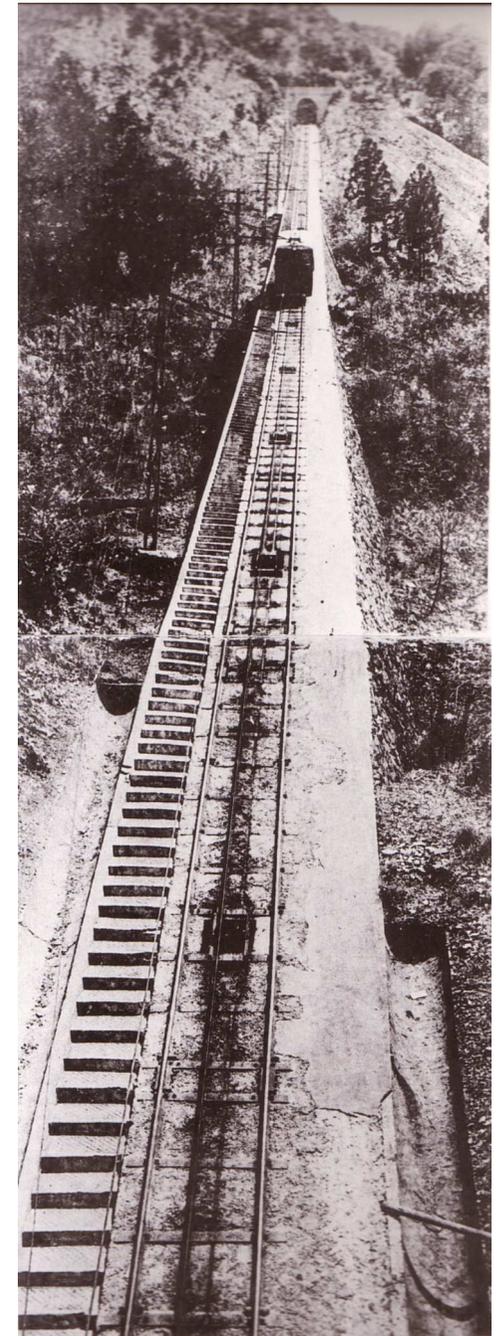
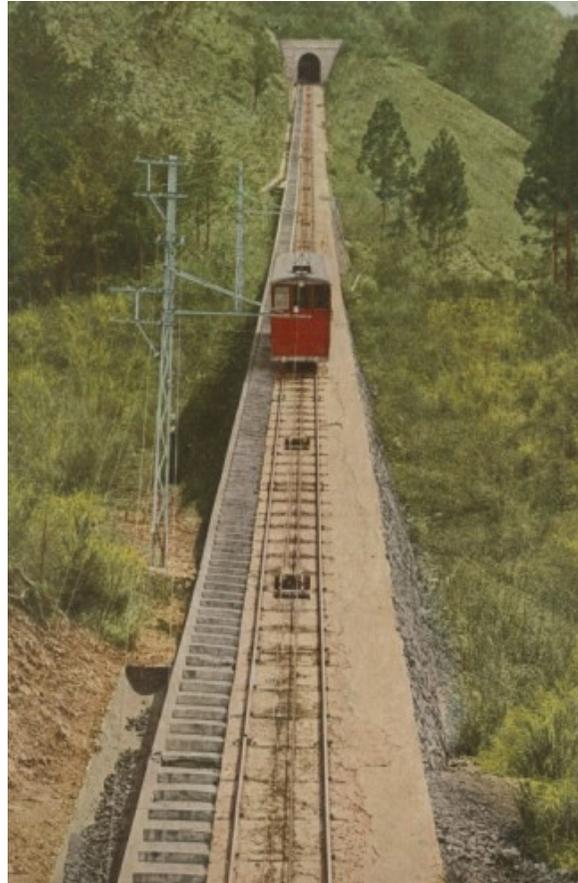
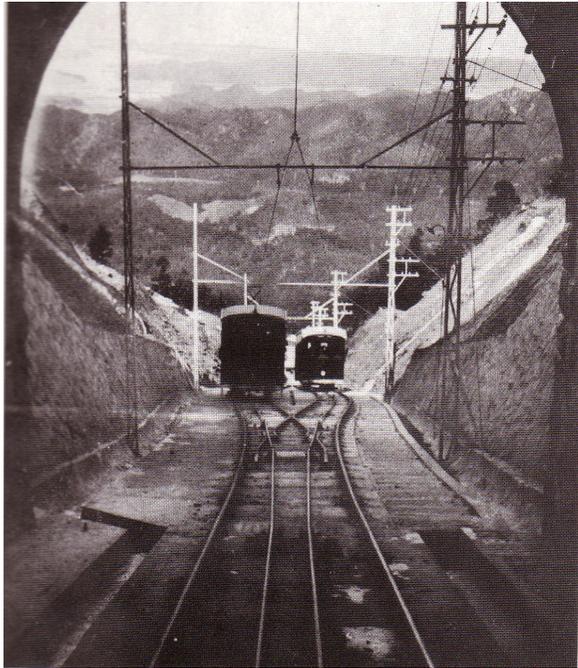
橋からの伊勢湾の眺望



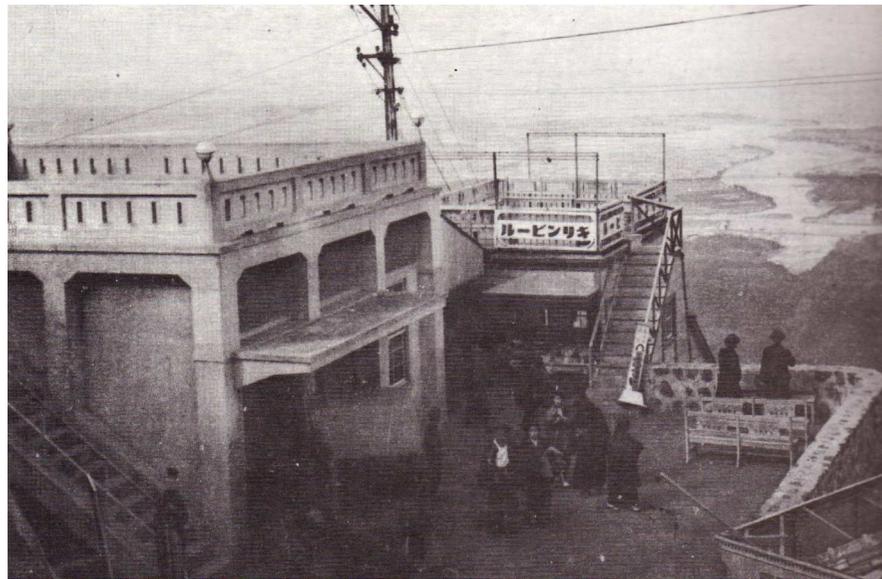
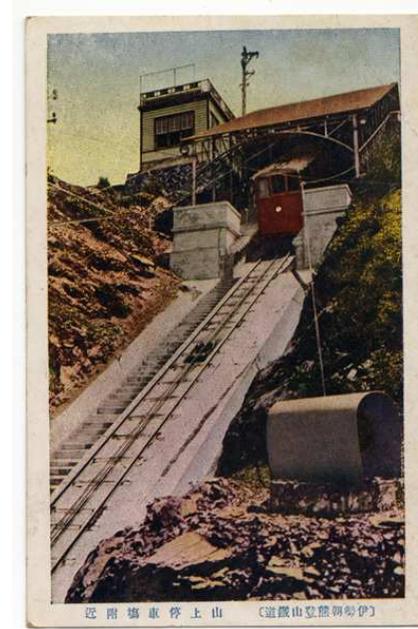
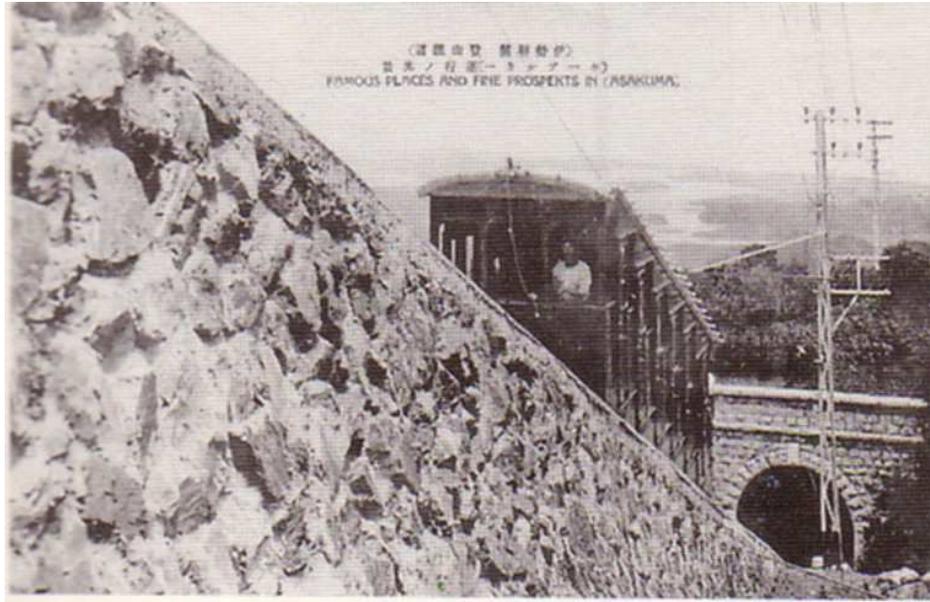
登山陸橋からすぐの  
第1トンネル



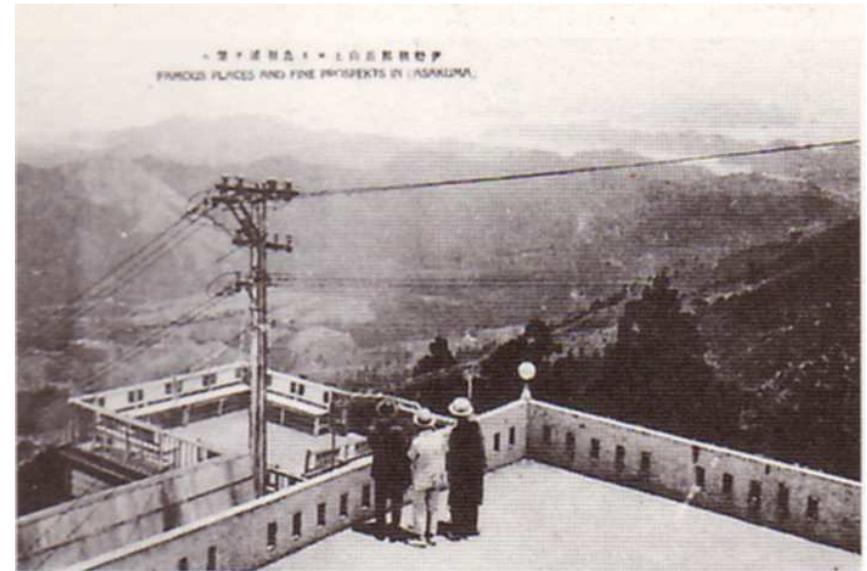
第1トンネルの内部



伊爾斯山鐵路中區中央站沙合川鐵路



岳駅



岳駅屋上からの眺望



第2トンネル



トンネル方向から見る



ケーブルの引き込み口



終点ホーム



切符売り場？売店？



便所

## 太田小三郎の業績



弘化2～大正5(1845～1913) 豊前国(現 福岡県豊前市)彦山生まれ。朱子学者広瀬淡窓に師事。古市の3大姑楼の一つ、備前屋(太田家)の養子。  
参宮鉄道(株)、宮川電気(株)を設立。神宮神苑の整備を目的とした明治19年神苑会を組織、明治27年山田銀行を創立。

### 神苑会の業績



太田君紀功碑



神苑会費



明治皇太后陛下滞在のために「賽日館」(二見)建設



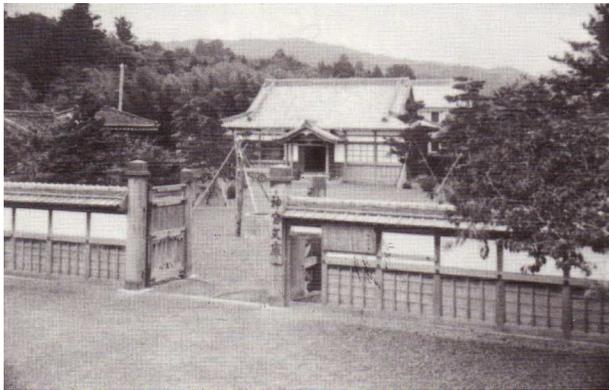
外宮勾玉池造成



神宮農業館



御徹下物拝観所



神宮文庫開館



神宮徴古館 開館



御幸道路竣成

終